

教科目標

作業療法士科 夜間部

1. 養成目的

社会の変化に対応し、医療・福祉・保健・教育や職業といったニーズに応えられる作業療法士を養成します

2. 教育目標

- ①必要な知識と技術をしっかりと身につけ、作業療法士国家試験に合格し、わが国の医療・福祉・保健に貢献できる力を身につける
- ②他者の痛みを汲み取ることができ、誰も取り残さない社会を実現するためのコミュニケーション力を身につける
- ③刻々と変化する社会の仕組みを理解し、他職種や地域との連携を図る力を身につける

3. カリキュラム

教育内容	科 目	総単位数 (総時間数)
基礎科目	心理学 基礎学習法A 基礎学習法B 情報処理入門 人間関係論 人の生活と作業 国際教育学	14 (210)
専門基礎科目	解剖学 解剖学演習 生理学 生理学演習 運動学 運動学演習 基礎医学特論Ⅰ 基礎医学特論Ⅱ 人間発達学 一般臨床医学Ⅰ 病理学概論 内科学 小児科学 整形外科学 精神医学 脳神経内科 一般臨床医学Ⅱ リハビリテーション概論 職業リハビリテーション 社会福祉概論 多職種連携論	36 (735)
専門科目	作業療法理論 基礎作業学 基礎作業学実習 作業療法管理学 身体運動系評価学Ⅰ 身体運動系評価学Ⅱ 身体運動系評価学演習 精神心理系評価学Ⅰ 精神心理系評価学Ⅱ 精神心理系評価学演習 運動器障害作業治療学 中枢神経障害作業治療学 精神障害作業治療学 発達過程障害作業治療学 高齢期障害作業治療学 高次機能障害作業治療学 日常生活活動学 日常生活活動学 演習 義肢装具学 臨床実践研究 地域作業療法Ⅰ 地域作業療法Ⅱ 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習Ⅴ 臨床実習概論	61 (2,010)
その他	作業療法総合学習Ⅰ 作業療法総合学習Ⅱ 作業療法特別講義Ⅰ 作業療法特別講義Ⅱ 作業療法特別講義Ⅲ 作業療法特別講義Ⅳ	13 (390)
合 計		124 (3,390)

4. 学年・学期目標

1年	学年目標	人の生活と作業の関係を知り、自己の活動性を高めていくことができる
	前期目標	自分が作業療法士科に入学した意味を理解し、3年間の学習イメージを作ることができる
	後期目標	リハビリテーションに必要な基礎知識を深めることができる
2年	学年目標	他者の存在を尊重し理解するために、必要な知識と技術を深めることができる
	前期目標	生活する上で妨げとなる病気等の構造と影響を学ぶことができる
	後期目標	病気や障害を抱えながら生活する人々の強さと弱さを理解できる
3年	学年目標	社会に対して自分が行動することの影響を理解し、目標に向けて行動することができる
	前期目標	臨床場面で実際に行われていることを理解し、今までの学習と結びつけることができる
	後期目標	社会や人に貢献するための資格取得に向け、総合的に学習活動を行うことができる

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
作業療法士受験資格	必	厚生労働省	指定科目を履修し、国家試験受験資格を認定
コミュニケーションスキルアップ検定	必	滋慶教育科学研究所	認定試験

6. 就職分野

就職分野	職 種
一般・総合リハビリテーション病院	作業療法士
精神科病院	作業療法士
介護老人保健施設	作業療法士
社会福祉施設(高齢者・障害児者施設など)	作業療法士
公務員	作業療法士

2023年度 教科課程

作業療法士科夜間部

1年

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	単 位 数	時間数	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
基礎 科目	心理学	Psychology	基礎	必修	講義	2	30		30	人の心の基本的な仕組みについて理解し、人の心理を考える手がかりとなる知識と、科学的に心を解明する方法について学ぶ。
	基礎学習法A	Method of Basic learning A	基礎	必修	講義	2	30	30		自分の力で課題を発見し、主体的に自ら学び続けることができる習慣を身につける。様々な情報を客観的・批判的に取捨選択をして統合整理し、自分の考えを表現できる能力を身につける。主に文章課題について取り上げる。
	基礎学習法B	Method of Basic learning B	基礎	必修	講義	2	30		30	自分の力で課題を発見し、主体的に自ら学び続けることができる習慣を身につける。様々な情報を客観的・批判的に取捨選択をして統合整理し、自分の考えを表現できる能力を身につける。主に数学的課題について取り上げる。
	情報処理入門	Basic of Information Technology	基礎	必修	講義	2	30		30	コンピュータの仕組みを簡単に理解し、Word Excel などコンピュータソフト技能を身に付けるとともに、現代社会に必要なセキュリティについても学ぶ。
	人間関係論	Human Relations	基礎	必修	講義	2	30	15	15	良好な人間関係を築き、協働することができるコミュニケーション能力を身につける。カウンセリング理論を中心とした人間関係論や相互交流のリーディングについて理解する。省察により自己理解を深めることによって、対話スキル、自己表現スキル、社会的スキルなどを身につける。
	人の生活と作業	Functioning in Living	基礎	必修	講義	2	30	30		人の生活を構成する要素について概観し、ICF(国際生活機能分類)が提示している内容を、実際の生活レベルで理解する。
	国際教育学	International Education	基礎	必修	講義	2	30		30	諸外国の福祉、医療の異文化理解を深め、国際化社会に対応できる能力を身につける。国際教育学の概要と目的について理解する。障害者に対する関わり方の理念を理解する。海外のリハビリテーション・作業療法について説明することができる。
専門 基礎 科目	基礎医学特論 I	Method of biochemistry I	専門 基礎	必修	演習	2	60	30	30	解剖学と生理学の要点を理解し、人体の基本的な構造や機能の理解に応用する能力を身につける。特に骨・筋・神経を中心とした構造と機能について、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、中枢神経系等の働きについて理解・説明することができる。
	解剖学	Anatomy	専門 基礎	必修	講義	2	60	60		人体の構造を客観的に捉え、正確に記録・伝達するために必要な解剖学用語と記載法を学ぶ。人体の諸構造を系統的に整理し、機能との関連づけを通して、今後習得していく運動学、臨床医学を理解するに十分な解剖学的知識を習得する。特に骨学、筋学、神経系の構成について集中的に学び習得する。
	解剖学演習	Practice for Anatomy	専門 基礎	必修	演習	1	30		30	解剖学で得られた骨・筋・神経の知識に加え、人体を構成する胸部・腹部の内臓、脈管系感覚器の基本的構造・形態・機能について説明出来るようになる。
	生理学	Physiology	専門 基礎	必修	講義	2	60	60		人体の機能を客観的に捉え、正確に記録・伝達する能力を身につける。人体機能を記述する専門用語の内容を説明することができる。具体的には神経細胞、神経伝達、反射について説明できる。中枢神経系、筋と骨、諸感覚器の構造と機能、血液の組織と機能などを理解する。
	生理学演習	Practice for Physiology	専門 基礎	必修	演習	1	30		30	生理学で得られた知識を深めるとともに、生体の反射調節・運動機構について説明出来るようになる。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	単 位 数	時間数	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
専門基礎科目	運動学	General Kinesiology	専門基礎	必修	講義	2	60	60		人間の身体運動を科学的に分析研究することより得られた運動器の構造や機能、正常運動の特性について総論的に説明出来るようになる。
	運動学演習	Practice for General Kinesiology	専門基礎	必修	演習	1	30		30	解剖学や生理学および物理学の知識を基に、人間の身体運動を科学的に分析して理解する能力を身につける。運動器の構造や機能、正常運動の特性について体験的に理解する。具体的には生体力学の基礎及び生体の構造と機能について体系的に触れることで理解する。作業・動作及び姿勢の分析を実行することができる。
	一般臨床医学Ⅰ	Introduction to Clinical Medicine Ⅰ	専門基礎	必修	講義	2	30		30	医学とは何か、またどのように発展してきたか歴史と過程を学ぶ。また医療機関の特徴や、医療者として必要な心構えや標準予防策を実践するための知識を学ぶ。
	職業リハビリテーション	Rehabilitation for Profession	専門基礎	必修	講義	1	15		15	ICFにおける「生産活動」及び就労、仕事などに関わる概念を理解することで、就労支援と生活支援の意味を理解し、実際の地域活動に参加できる能力を身につける。心理社会的発達における生産性と世代性、キャリア形成論などを理解し、人にとって職業及び働くことの意味について様々な観点から理解を深める。
	社会福祉概論	Social Welfare	専門基礎	必修	講義	1	15	15		社会福祉の基本理念、その運動と歴史を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。社会保障論、障害者福祉論、社会福祉法制度の基礎と社会福祉の機構について理解する。医療、自立支援、児童福祉、高齢者福祉等を包括する地域包括ケアシステムについてその要点を理解する。
	リハビリテーション概論	Introduction for Rehabilitation	専門基礎	必修	講義	1	15	15		リハビリテーションの理念、歴史、目的をはじめ医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションを総合的に理解することにより、リハビリテーションにおける作業療法の位置について説明できるようにする。国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)の思想、個人モデルと社会モデルについて理解する。リハビリテーションの過程と諸相について理解する。
専門科目	作業療法理論	Theory for Occupational Therapy	専門	必修	講義	2	30	30		作業療法の起源や歴史、および定義や治療理論などを作業療法学としての学問的基礎知識と記録・報告などの基礎技法を学ぶとともに、作業療法を展開するうえで必要な作業療法理論とその周辺領域の理論について学ぶ。
	基礎作業学	Basic Theory and Practice for Occupational Therapy	専門	必修	講義	2	30	30		作業の概念を理解することで、作業療法が作業に基づく実践であることを多角的に説明する能力を身につける。作業の定義、作業の目的別区分(生産活動、遊び、セルフケア)について理解する。作業・活動分析の目的と形式を理解する。
	基礎作業学実習	Occupation Practice	専門	必修	実習	2	90		90	作業療法の治療手段であり目的でもある作業活動を行うことを通じて、その基礎的な知識と技術を習得する。作業活動の実践において協働や参加の意義を感じ表現する。作業・活動分析を実際に行うことができる。
	身体運動系評価学Ⅰ	Occupational Therapy Assessment for Physical Function Ⅰ	専門	必修	講義	1	30		30	主に成人における身体障害領域でのリハビリテーション評価全般と、一般的な作業療法評価について学ぶ。
	精神心理系評価学Ⅰ	Occupational Therapy Assessment for Mental Function Ⅰ	専門	必修	講義	1	30		30	主に精神障害領域でのリハビリテーション評価全般と、一般的な作業療法評価について学ぶ。
	日常生活活動学	Activity of Daily Living	専門	必修	講義	2	30		30	ICFにおける生活機能を概観し、日常でその生活機能に支障があった場合の改善策について理解し、工夫の方法を学ぶ。

	地域作業療法学 I	Occupational Therapy for Community-Based Rehabilitation	専門	必修	講義	2	30		30	地域における作業療法をとりまく医療・福祉の理念、サービス体系、推進方法などを学び、地域包括ケアの概念の中で作業療法士の果たす役割について理解する。
	臨床実習 I	Basic Clinical Fieldwork I	専門	必修	実習	1	45		45	作業療法士が実際に働いていたり必要とされる場面で、作業療法の目的や方法についてどのように実践しているか見学を主体にした実習を行う。
	臨床実習概論	Basic Clinical Fieldwork Overview	専門	必修	講義	1	45		45	3年間でされる臨床実習について方法や手段を理解し、実習生として望まれる態度や知識について実際に行動して学習する。
その他	作業療法総合学習 I	Program for National Examination I	その他	必修	講義	2	60	30	30	これまでに受講した授業や臨床実習で学んだ内容の要点を整理し、作業療法全般の理解を深めるとともに、1年で学んだ基礎知識を確認することで、作業療法を系統的に理解する。専門基礎分野で学んだ知識(主に基礎医学的知識)の要点を確認し、総合的な学習経験と結びつける。毎回講義内容に即した学習課題を実行する。
			総単位数 (46)						総時間数 (1,035)	

(履修科目の下限と上限) 1年間に履修する授業科目は、46単位以上55単位未満とする

【標準年次別時間数・単位数】

1年次	1,035時間 / 46単位
2年次	1,020時間 / 39単位
3年次	1,290時間 / 39単位

※「国際教育学」は6段階評価の対象外科目であり、評価はS(合格)、またはU(不合格)とします。

2024年度 教科課程

作業療法士科夜間部

2年

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	単 位 数	時間数	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
専門基礎科目	基礎医学特論Ⅱ	Method of biochemistryⅡ	専門基礎	必修	演習	2	60	30	30	臨床実習で必要となる上肢、下肢を中心とした人体の運動機能と、解剖生理学で学び得た基礎医学の知識を統合し理解を深める。特に上肢・下肢・脊柱の神経支配や運動機能、姿勢や運動学習等について理解・説明することができる。
	病理学概論	Basic of Pathology	専門基礎	必修	講義	2	30	30		病理学は病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問であり、疾患や障害を理會する上では重要な知識である。ここでは組織学的形態学を中心に概観し、病気がどのように成り立っているかを理解する。
	内科学	Internal Medicine	専門基礎	必修	講義	2	30	30		内部疾患を医学的見地から理解するとともに疾病から派生する障害について説明出来るようになる。
	小児科学	Pediatrics	専門基礎	必修	講義	1	15	15		小児の成長・発達及び小児の病態・障害を理解し、子どもと保護者への支援に活かす能力を身につける。具体的には、神経系(脳性まひ、てんかん、発達障害など)、遺伝子・染色体異常(ダウン症候群など)、筋ジストロフィーなどの障害と臨床医学(リハビリテーション)について理解する。
	整形外科学	Orthopedics	専門基礎	必修	講義	2	30	30		疾病や外傷に起因する運動器障害の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について説明出来るようになる。
	精神医学	Psychiatric Medicine	専門基礎	必修	講義	2	30	30		精神疾患の病態、病型と分類並びに精神疾患から派生する障害を説明出来るようになる。
	脳神経内科学	Neurology	専門基礎	必修	講義	2	30	30		末梢および中枢神経系機能の障害に起因する疾病を理解するとともに疾病から派生する障害について説明出来るようになる。
	人間発達学	General Human Development	専門基礎	必修	講義	2	30	30		人間発達の基礎として、各段階における身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的発達、人格の発達を説明出来るようになる。
	臨床心理学	Clinical Psychology	専門基礎	必修	演習	2	30	30		心理学の基礎知識、臨床心理学を学び、かつ心理的な対人援助の方法と実際について理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。日常生活における心の健康、知覚・学習・記憶・心理社会・発達などの基本概念、及び代表的な心理療法、心理検査について理解する。
	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	単 位 数	30	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
	身体運動系評価学Ⅱ	Occupational Therapy Assessment for Physical FunctionⅡ	専門	必修	講義	1	30	30		身体運動系作業療法評価総論について理解する。これまでに学んだ基礎知識を踏まえ、これら領域の基礎的な評価技法を習得する。また身体障害領域の臨床において実際に評価をする総合的な能力を身につける。
	身体運動系評価学演習	Practice for Occupational Therapy Assessment for Physical Function	専門	必修	演習	1	30		30	身体運動系評価の定義、評価の手順、情報収集と解釈について理解する。対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。評価面接と観察と記録の基本的な技法を身につける。各領域のアセスメント法及び代表的疾患の評価事例について理解する。

専門科目	精神心理系評価学Ⅱ	Occupational Therapy Assessment for Mental Function Ⅱ	専門	必修	講義	1	30	30		精神障害作業療法評価総論について理解する。これまでに学んだ精神障害領域、高齢期領域の基礎知識を踏まえ、これら領域の基礎的な評価技法を習得する。またこれら領域の臨床において実際に評価をする総合的な能力を身につける。
	精神心理系評価学演習	Practice for Occupational Therapy Assessment for Mental Function	専門	必修	演習	1	30		30	精神心理系評価の定義、評価の手順、情報収集と解釈について理解する。対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。評価面接と観察と記録の基本的な技法を身につける。各領域のアセスメント法及び代表的疾患の評価事例について理解する。
	運動器障害作業治療学	Occupational Therapy for Physical Disorders	専門	必修	講義	2	60	30	30	臨床実習に向け、運動器障害領域の各疾患・障害別の作業療法の実践について習得する標準予防策、リスク管理、コミュニケーション、上肢管理、下肢装具の装着介助、車椅子の駆動介助、移乗介助、歩行介助、呼吸練習・排痰手技、構音練習、食事動作・摂食嚥下練習、更衣動作・入浴動作練習、IADL練習の基礎的技法を身につける。
	中枢神経障害作業治療学	Occupational Therapy for Central Nervous System	専門	必修	講義	2	60	30	30	臨床実習に向け、中枢神経系身体障害領域の各疾患・障害別の作業療法の実践について習得する標準予防策、リスク管理、コミュニケーション、上肢管理、下肢装具の装着介助、車椅子の駆動介助、移乗介助、歩行介助、呼吸練習・排痰手技、構音練習、食事動作・摂食嚥下練習、更衣動作・入浴動作練習、IADL練習の基礎的技法を身につける。
	高齢期障害作業治療学	Occupational Therapy for Geriatric Disorders	専門	必修	講義	2	60	30	30	老年期障害領域における各障害に対する作業療法の実践を身に付ける事が出来るようになる。
	精神障害作業治療学	Occupational Therapy for Mental Disorders	専門	必修	講義	2	60	30	30	臨床実習に向け、精神障害領域の各障害に対する作業療法を実践する能力を身につける。精神疾患により生活のしづらさに悩む人々への治療・援助計画を、その人の個人因子・背景因子を踏まえて立案し実践するための知識・技術を習得する。精神科医療、精神障害リハビリテーションと作業療法に関する基礎知識、疾患別の作業療法について説明できる。統合失調症の病期ごとの作業療法の特性を理解する。
	発達過程障害作業治療学	Occupational Therapy for Developmental Disorders	専門	必修	講義	2	60	30	30	演習を通して、発達障害領域の作業療法評価、治療、援助を実践する能力を身につける。子どもの正常発達(運動と認知)についての概要を説明することができる。発達障害領域の評価の種類と内容と使い方を理解する。具体的な疾患の特徴を知り、それに対してのアプローチを説明することができる。
	高次機能障害治療学	Occupational Therapy for Brain Dysfunction	専門	必修	講義	2	60	30	30	高次脳機能障害に対する作業療法を実践するための基礎的な能力を身につける。基本的な高次脳機能障害を理解し説明ができる。高次脳機能障害に対応する代表的な検査を体験し、特徴を述べることができる。高次脳機能障害とADLの繋がりを理解し、障害像をイメージできる。高次脳機能障害の基本的な作業療法介入について理解し、プログラムの立案ができる。
	日常生活活動学演習	Practice of Activity of Daily Living	専門	必修	演習	1	30	30		日常生活活動に参加する能力を高める作業療法を実践できるようになる。作業療法の視点から日常生活活動を理解し述べる事ができる。日常生活動作の各活動について分析し特性を説明する。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べる。日常生活活動の定量評価について学び測定することができる。
	臨床実習Ⅱ	Basic Clinical Fieldwork Ⅱ	専門	必修	実習	5	225		225	臨床(評価)実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価一問題点の抽出一治療目標設定一治療計画立案までの流れを実施する事が出来るようになる。実習指導者から、実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。そして実習前後評価を通して、教育結果を判定する。
総単位数 (39)						総時間数 (1,020)				

(履修科目の下限と上限) 1年間に履修する授業科目は、39単位以上46単位未満とする

【標準年次別時間数・単位数】

1年次	1,035時間 / 46単位
2年次	1,020時間 / 39単位
3年次	1,290時間 / 39単位

2025年度 教科課程

作業療法士科夜間部

3年

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	単 位 数	時間数	学期別時間数		科目概要
								前期	後期	
専門基礎分野	多職種連携論	Multiprofessional Cooperation Theory	専門基礎	必修	講義	1	15	15		異なる専門的背景を持った専門職が、どのように効率よく連携や協働を行うかについて事例を通して学び、そのためのマネジメントの方法について理解する。
	一般臨床医学Ⅱ	Introduction to Clinical Medicine Ⅱ	専門基礎	必修	講義	2	30	30		健康の基本的概念と疾病に関する概念、予防医学、栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学の概要を理解することにより、様々な臨床判断の理論的背景について説明できるようになる。特に臨床医学の全体像、診察→検査→治療の流れ、生理学的検査、画像検査、薬物療法、リハビリテーション、手術療法、クリニカルパス等について理解する。
専門科目	義肢装具学	Prosthetists and Orthotists	専門	必修	講義	2	30		30	演習を通して、義肢装具に関する基礎知識を習得し、作業療法実践に有効に用いる能力を身につける。四肢の切断に対する義肢や装具に関する基礎的な知識(定義・分類・適応・適合判定など)を得る。実際の義肢装具を触れ操作することで理解を深める。実際にコックアップスプリント、指用ナックルベンダーを作成する。義肢装具にかかわる作業療法士の役割を理解する。
	作業療法管理学	Occupational Therapy Management	専門	必修	講義	2	30	30		作業療法の臨床における制度的な統制と施設の組織的な管理について理解するとともに、職場管理の問題を同定し、自律的に思考したことを表現する能力を身につける。作業療法実践に関連する法律と諸制度について理解する。作業療法教育においては、実習指導を中心とした現場での学生指導、新人教育などの卒業後教育に必要な要素や仕組みについて理解し、自身・後進の育成におけるキャリアマップをイメージすることができる。
	臨床実践研究	Research of Clinical Practice	専門	必修	演習	2	60		60	臨床で行われている実践例を文献で研究し、同様の事例を比較検討するとともに、基礎知識の定着を図る。
	地域作業療法学Ⅱ	Occupational Therapy for Community-Based Rehabilitation	専門	必修	講義	2	30		30	地域における作業療法をとりまく医療・福祉の理念、サービス体系、推進方法などを説明出来るようになる。
	臨床実習Ⅲ	Basic Clinical FieldworkⅢ	専門	必修	実習	8	360	360		臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。実習指導者から、実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。そして実習前後評価を通して、教育結果を判定する。
	臨床実習Ⅳ	Basic Clinical FieldworkⅣ	専門	必修	実習	8	360		360	臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。実習指導者から、実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。そして実習前後評価を通して、教育結果を判定する。

	臨床実習Ⅴ	Basic Clinical FieldworkⅤ	専門	必修	実習	1	45		45	地域生活支援を実践する場(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等)で実習をすることにより、地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける。作業療法士の実習指導者から実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。そして実習前後評価を通して、教育結果を判定する。
その他	作業療法総合学習Ⅱ	Program for National ExaminationⅡ	その他	必修	講義	3	90		90	これまでに受講した授業や臨床実習で学んだ内容の要点を整理し、作業療法全般の理解を深めるとともに、1・2年で学んだ基礎知識を確認することで、作業療法を系統的に理解する。専門基礎分野で学んだ知識(主に基礎医学・臨床医学的知識)の要点を確認し、総合的な学習経験と結びつける。毎回講義内容に即した学習課題を実行する。
	作業療法特別講義Ⅰ	Special Program for Occupational TherapyⅠ	その他	必修	講義	2	60	30	30	これまでに受講した授業や臨床実習で学んだ内容の要点を整理し、身体障害系作業療法全般の理解を深めるとともに、1・2年で学んだ基礎知識を確認することで、作業療法を系統的に理解する。専門基礎分野で学んだ知識(主に基礎医学・臨床医学的知識)の要点を確認し、総合的な学習経験と結びつける。毎回講義内容に即した学習課題を実行する。
	作業療法特別講義Ⅱ	Special Program for Occupational TherapyⅡ	その他	必修	講義	2	60	30	30	これまでに受講した授業や臨床実習で学んだ内容の要点を整理し、精神障害系作業療法全般の理解を深めるとともに、1・2年で学んだ基礎知識を確認することで、作業療法を系統的に理解する。専門基礎分野で学んだ知識(主に基礎医学・臨床医学的知識)の要点を確認し、総合的な学習経験と結びつける。毎回講義内容に即した学習課題を実行する。
	作業療法特別講義Ⅲ	Special Program for Occupational TherapyⅢ	その他	必修	講義	2	60	30	30	これまでに受講した授業や臨床実習で学んだ内容の要点を整理し、高齢期障害作業療法全般の理解を深めるとともに、1・2年で学んだ基礎知識を確認することで、作業療法を系統的に理解する。専門基礎分野で学んだ知識(主に基礎医学・臨床医学的知識)の要点を確認し、総合的な学習経験と結びつける。毎回講義内容に即した学習課題を実行する。
	作業療法特別講義Ⅳ	Special Program for Occupational TherapyⅣ	その他	必修	講義	2	60	30	30	これまでに受講した授業や臨床実習で学んだ内容の要点を整理し、発達過程障害作業療法全般の理解を深めるとともに、1・2年で学んだ基礎知識を確認することで、作業療法を系統的に理解する。専門基礎分野で学んだ知識(主に基礎医学・臨床医学的知識)の要点を確認し、総合的な学習経験と結びつける。毎回講義内容に即した学習課題を実行する。
			総単位数(必修39)						総時間数(必修1,290)	

(履修科目の下限と上限) 1年間に履修する授業科目は、39単位以上46単位未満とする

1年次	1,035時間 / 46単位
2年次	1,020時間 / 39単位
3年次	1,290時間 / 39単位